
魔法少女リリカルなのは ~ 転生じゃない? なら憑依?? ...え、どっちでもない! ? ~

zelga

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは ～転生じゃない？なら憑依？？…え、どっちでもない！？～

【Nコード】

N1004Z

【作者名】

zeilga

【あらすじ】

ある日、俺は突然意識を失った……

そして目が覚めると目の前にはきれいな女性が土下座をしていた！！
「すみません！私のせいであなただは死んでしまいました！！」

「…はい、テンプレですね。」

と、いうわけで俺はなのはの世界へ行くこととなった！……が、
「…あ、すみません。間違えてしまいました！ てへっ」

「…は？」

さて、いきなり前代未聞の事態！！（笑）

転生ぽいけど転生じゃない！？ 憑依ぽいけど憑依じゃない！？
そんなこんなで、

魔法少女リリカルなのは

）転生じ

やない？なら憑依？？…え、どつちでもない！？）

始まります！！

作者は初心者で、この作品は処女作です。

プロローグ その1 (前書き)

この作品は

キャラ崩壊 が時々おこり

原作ブレイク をします。

それはイヤだという人は見るのをオススメしませんよ？
それでもいいよという人は是非見ていってください！！

で

は、

魔法少女リリカルなのは へ 転生じゃない？なら憑依？？…え、ど
つちでもない！？？

始まります！！

プロローグ その1

? 「いや、やっとなのは借りるが出来たな！」

そう言いながらTS TAYAから出てきた俺

? 「楽しみだな、早く帰って!？」

すると突然頭に衝撃を受けて倒れてしまった

? 「何なんだよ、急に……てあれ?意識が……」

だんだん意識がぼやけてきてる……

? 「はは……嘘だろ?、まさか……なのはやっと借りれた瞬間に死ぬとか……」

どうせなら……どうせなら……!!

? (なのは見てから死にたかったよおおおおお!!……)

そして、俺の意識はそこでとぎれた

その瞬間、俺の体が異常なまでに光っていることに気づかず……

ら消えた

そして、この瞬間【俺】という存在はこの世界か

プロローグ その1 (後書き)

zeilga「いや、ついに始まったな!!」

?「始まったな!!、じゃねえよ! 俺名前すら出てきてねえじゃねえか!？」

zeilga「大丈夫だって!、そのうち出すから!」

?「そうか、なるべく早く出してくれよ?いつまでも」?「はイヤだからな?」

zeilga「わかってるって、ちゃんと出すからな!...多分」

?「おい、今最後に不吉なこと言ってるじゃないか!？」

zeilga「はい、というわけで

魔法少女リリカルなのは 転生じゃない?なら憑依??...え、どつちでもない!?? が始まりました!、読者のみなさん、感想とか、できればたくさん下さいね!

それではさようなら!!」 ガチャツ (部屋から出ていく音)

?「おい!、無視するなよ! : あ、これからあの作者^{アホ}の作品をよろしくな!

てか、待ちやがれえええ!」 ガチャ! (部屋から急いで出

ていく音)

ブログ その2 (前書き)

連・続・投・稿 です!!

あらすじを入れることにしたので追加修正しました

プロローグ その2

前回のあらすじ!!

なのはのDVDを借りた

頭に衝撃がはしった!

おれ、オワタ＼(^O^)/

~~~~~

?「……ん?」

俺は意識が戻った、戻ったは良いのだが…

?「…どこぞ?」

そう、今言ったとおり俺が今いる場所は俺が倒れたあの道じゃな  
かった

白、白、白 白一色に染まっている空間、そこに俺は“浮いて”  
いた

？「て、なんで浮いてんだ！？」  
てかここどこだ！？　なんで俺はこんな所にいるんだあ！！  
？？」

よ、よろし落ち着け、俺！　まずは状況確認だ！

意識　く　はっきりしてる

体調　く　特に問題なし、はっきり言って好調

俺の身体　く　丸い球体、ついでに光ってる

？「よろし、問題なし…じゃねえ！？　なんで俺の身体が球体なんだ！？」

あ！「　　いったいなにがどうな「それは私が説明します！」っておわ

な、なんと目の前に美人『ココ重要』なお姉さんが！！

？？「えくと、あなたが藤堂鏡夜さんとうどうきやですよね？」

？改め　鏡夜「え？ああ、そうですね？」

？？「よかった、やっと会えた…では」

鏡夜「で、では？」

何をする気だこの人は！？

？？「すみませんでしたああああ！！！！」　　めちやくちゃき

れいな土下座

あ、なんかいやな予感・・・



鏡夜「はあ…というわけで

プロローグはもうそろそろ終わる、というか終わらせるから  
みんなのしみにまっけてくれよー！じゃあなー！！」

感想待ってます！！

## プロローグ その3 (前書き)

プロローグはこれで最後です！

個人的に納得いかなかったんで、少し修正しました

## プロローグ その3

前回のあらすじ!!

俺、しろい空間にいた!

俺の身体が丸くなった!?

目の前で美人が土下座!!

~~~~~

お話中 ～しばらくお待ち下さい～

鏡夜

「…つまり今の話をまとめると、

あなたは女神で昼寝

している間に俺を間違えて殺してしまった、と」

女神? 「は、はい…その通りです」

まだよくわからんが、とりあえず俺がやるべき事は決まった

というわけで、携帯電話を取り出して…

鏡夜「1、1、きゅ「な、なにしてるんですか!」「ん?なにっ
て、

頭がお花畑の人がいるから救急車を呼ぼうかと

…」

女神?「やめてください! 私は正常ですよ!?!」

鏡夜「嘘だ!?!?!」

思わず某鈍女の台詞を言う

女神?「本当ですよ!

じゃあ、あなたのその身体はどうやって説明するんです
か!?!」

げ、痛いところついてきやがった…

鏡夜「はあ…わかったよ、じゃあ仮にあんたが神だとして

なんで俺はこんな身体なんだ?」

女神「はい、それは死んだ人の魂がそんな形になるからです。

普通は光りませんが、間違っで死んでしまった魂は全て光
ります」

なるほど、確かに話の内容があっている

てことは、やっぱりこの人って女神??

鏡夜「(しょうがない、信じるしかないか)

で、

俺はこれからどうなるんだ？

天国に行くのか？ まさか地

獄か！？」

女神「いえ！そんなことはありません。あなたはどちらにも行きませんよ？

そもそもちゃんとした死でない限り天国にも地獄にも行きませんし。」

鏡夜「は??？」

え、じゃあ俺はどうなるんだ？ あ、まさか・・・

女神「あなたには別の世界に転生してもらいます!!！」

…うん!!！」

鏡夜「テンプレですね」

女神「…はい、

わたしたち神が人を間違えて殺してしまった場合それしかできませんから」

…妙な裏事情を知ってしまった

鏡夜「で、俺はどこに行くんだ？ そしてチート能力は付けてくれるのか？」

女神「はい、あなたが行く世界はあなたが決めて下さい。
そして能力ですが、1つだけならかなえれますよ?」

まじで!?!…もしかして

鏡夜「なのはの世界にも行けるのか?」

女神「はい、アニメや漫画の世界だろうと行けます!」

きた————!!!!!!

鏡夜「じゃあ行く世界はもちろんなのはの世界で!

んで、能力はフェ「ちよつと待って下さい!」……な
んだよ?」

女神「能力に関するのですが、少し注意事項があります

f a t e やネギま!の能力は禁止

アニメやゲームの世界の全ての能力を使用可能 も禁止
の2つです。」

鏡夜「なにい!?! 嘘だろ…(泣)」

せつかくチート考えてたのに…orz

女神「えと、その前に殺してしまったお詫びとしてあなたに能力
をひとつあげます!」

鏡夜「まじで!?!何か得した気分だな!で、何の能力なんだ?

まさかフェ「いいえ、違います」…じゃあなに?」

女神「あなたが学生の頃考えていた能力を差し上げます！」

え、それって…もしかして…

鏡夜「それってさ、もしかして…」

女神「ええと、初期化リセットでしたっけ？」

鏡夜「うがああああ…！！！」

それって、俺が厨二病全開だったとき考えた能力じゃねえか！！

鏡夜「けどそれって、一応過負荷だろ？俺はどうなるんだ？」

女神「大丈夫です！一種のレアスキルとして渡しますから」

鏡夜「ならいいけど…はあ」

女神「どうしたんですか？」

鏡夜「いやまさか、あのころ考えていた能力を使うことになるのは…」

思い出せば思い出すほど、俺って厨二病だったんだな

女神「あはは…」「苦笑」で、あと1つはどうするんですか？」

鏡夜「それじゃあ、身体能力をかなり高めにして俺にリンカーコアをつけてくれ！」

正直言つと初期化リセットあるだけでだいぶチートだしな

女神「わかりました！では、おりゃー！……はい、終わりましたよ！」

鏡夜「はやすぎないか!？」

いや、神様だとしてもはやすぎるだろ!!

女神「細かいことは気にしないで下さい!

ええと、身体能力は大人100人くらいで、
リンカーコアの魔力はSSSにしましたよ。」

まさかのチートボディきたー!!!!

鏡夜「ありがとうございます!」

女神「いえいえ、元はといえば私が間違つて殺してしまったので……」

鏡夜「女神さん……」

この人めちやくちやいい人じゃねえか!

さっきまでの俺を殴りたい!!

女神「では、いつてらっしやい!!」

女神さんがそう言った瞬間、軽い浮遊感……

……ん？ 浮遊感？

鏡夜「やっぱりかあああああああ！……！」

そして俺は落ちていった

頭上で女神がこんなことを言っているとは知らずに……

女神「……あ、間違えちゃった、テヘッ」

プロローグ その3（後書き）

zeilga「はい！というわけでプロローグその3でした！！」

鏡夜「ブツブツ…」

zeilga「…おい鏡夜、いい加減戻ってこいよ。」

鏡夜「痛い…痛すぎる…」

zeilga「そんなにイヤだったのか？あの能力。」

鏡夜「当たり前だろ！？冗談で作った能力だったんだ！

それが…それが…！」

zeilga「自分が使うことになった、と…（…）ニヤニヤ」

鏡夜「ちくしょおおおおお！！」ガチャツ「部屋から出て行く

音」

zeilga「あゝあ、いつちゃったよ…」

てな訳で、次回からは本編にはいるから待っていてくれよ！

それじゃあ、また会いましょう！！ さよなら！！」

感想待ってます！！

無印編？ プロローグ くやつと転生、でもいきなり問題発生！?? (前書き)

ちよつとここら辺でふきだしのことについて変更があります
この無印編からはこんな感じに変わっていきます

【】 〓 鏡夜の会話

「」 〓 鏡夜以外の会話

《》 〓 鏡夜の念話

（） 〓 鏡夜以外の念話

とまあ、こんな感じです！

では、無印編？プロローグをどうぞ！！

体調　↳　女神さんのおかげか、とても好調。ただし違和感？

身体　↳　だいたい9か10歳くらいの身体で、髪は金髪

【よし、特に問題な…？】

突現近くのしげみがゆれた

なんだ？犬か？猫か？まさかフェレットか？

そう考えていた俺の前に出てきたのは…

触覚が二本あり、黒くて丸くてでかいナニカだった！

【……は？】

キョウヤ　ハ　クロクテマルイナニカ　ト　デアッタ！

キョウヤ　ハ　ドウスル？

1、戦う

2、道具

3、いれかえる

4、逃げる

【て、これポ モンじゃねえか！？ しかも入れ替えるって誰と
！？？】

と、とりあえず相手を観察しておこう！

見た目 〽 黒くて、丸くて、でかい

特徴 〽 長い二本の触覚と、赤く光る目

補足 〽 形がぼやけてるような・・・？

な〜んか、どこかで見たような気がするな…？

そう思っていたら、そのナニカが俺をにらんできている

どう考えても、おれ狙われてるよな・・・

【考えるのはあとだな、今は戦るしかねえ！】

こっぴなったらとことんやっつてやらあー！！

そんなわけで、俺は転生してから1分で戦うことになった

このとき、はやく気づくべきだったんだ

自分が戦っているナニカの正体と身体の違いの原因に・・・

無印編？ プロローグ くやつと転生、でもいきなり問題発生！？（後書き）

zeilga「てなわけで無印編？プロローグでした！」

鏡夜「まさかいきなり戦うことになるとは思わなかったな。」

zeilga「敵の正体は察しがいい人ならわかるかな？」

鏡夜「ていうか、ほとんどのやつならわかるだろうが！」

zeilga「なん…だと…！？（；・・・）」

鏡夜「おい、まさか隠しきつたつもりだったのか？」

zeilga「…はい、では皆さん次回を楽しみにしてくれよな！」

鏡夜「おいコラ！、俺の質問に答える！」

zeilga「（。。（アーアーなにもきこえない）」

鏡夜「（ブチッ）そうか、よっぽど死にたいらしいな…（#^

^）」

zeilga「きよ、鏡夜くん？この場所はお話をするところだよ？」

鏡夜「わかってるって、OHANAASHIをするところだろ？」

「じゃあサツソクしようか？」

zeilga「文字が違つよ！？、ってぎゃあああああああ！！

！！」

鏡夜「散れやぼけえええええ！！！！」

……感想待ってます！

無印編？ プロローグ その2 くいきなり戦闘、そして予想外の事態！？く

連続投稿だ！！

今回は、結構長めです！

無印編？ プロローグ その2 ～いきなり戦闘、そして予想外の事態！～

前回のあらすじ！

森の中に俺、参上！

黒いナニカが現れた！

サツソク戦いだと！？

~~~~~

【こっち来るなああああ！！】

はいどうも、鏡夜です！

…え、いまなにしてるかって？

答えは簡単！！

絶賛、逃走中です

…すまん、何か無駄にテンションあがっていた

だが、逃げているのは本当だ

イヤだつてさ、さっきまで戦っていたんだけど

どれだけ殴ったり蹴ったりしても元の状態に再生してしまうんだよ!!

【それなら、初期化リセットを使っしかねえ!】

そう思い初期化リセットを使おうとしたけど…

【…どうやって使うんだ?】

そう!使用方法を聞くのを忘れていたんだ!! てな訳で…

【ちくしょおおおおおおお!!】

あの黒お化け(勝手に命名)から逃げているんだよ!

【つたく、再生能力とかふざけんじゃねえぞ!

こんな化け物じみた能力なんてあいつはどこぞの暴走体か!?】

…ん、ちよつと待てよ?

黒くて、丸くて、目が赤く光っていて、再生能力を持っていて

…

…って、まさか!?

ひとつの可能性が出てきて、俺はある映像を思い浮かべる

それはなのはのアニメ第一話

そこに出てきた暴走体と俺を追いかけてきている黒お化けを重ねてみた…

・・・うん！ 全く一緒だ！！

【つてことはあいつ、ジュエルシードの暴走体じゃねえか！！】

あれはなのはとユーノが封印したはずだろ！？

つまり…今は原作開始前つて事か

ということは、近くにはユーノがいるはず！

【あの淫獣だけが頼りかよ！くそつ、どこにいる！？】

さて、ここで疑問が出てくる

なぜ、淫獣<sup>ユーノ</sup>だけが頼りなのか？それはな…

俺は封印術が使えないからだ！！

かといって、たとえ封印術が使えたとしてもあいつを見つけない

ければならない

なんでかって？それはね…

俺はデバイスを持っていなかったんだ！！

あの女神さんからもらった能力は

初期化<sup>アッセル</sup>

SSSランクのリンカーコアと大人100人ぶんの身体能力  
の2つ

つまり…デバイスを持っていなかったら俺は魔法が使えない！

そして初期化<sup>アッセル</sup>は使用方法が不明で身体能力は今回は意味がない

つまりは俺一人だったらもうすでに詰んでいた。あぶないあぶない…

【どうやってたら…あ、念話があるじゃねえか！】

やり方は詳しくはわからんが今はこれにかけるしかねえ！！

《おい、誰か聞こえるか！聞こえたなら返事をしてくれ！！》

「??.??.side」

「.....ん?」

「ここはどこだろう?」

そう思い目を開けるとボクは走っていた

.....あれ?

なんで身体が勝手に動いてるんだ!?

こころ思っている今も身体は勝手に動いている

すごい勢いで走っている、どこに行くのだろうか?

.....て、そんなことじゃない!

ボクはたしかこのあたりに落ちたジュエルシードを探しに来て

.....

そうだ! 索敵魔法に反応があったがあった瞬間意識を失ったんだっけ.....

ということとは、ボクは誰かに操られているのか？

そんな魔法聞いたことがないよ!？

そう考えていたら

《おい、誰か聞こえるか!聞こえたなら返事をしてくれ!》

突然念話が聞こえてきた

ということは、このあたりに魔導士がいる

…もしかして、時空管理局の人かも!

《誰かいないのか!?》

もしかしたら、助けてもらえるかもしれない…

そう思い、僕は助けを求めるために念話を使った

(こちらの声が聞こえますか!?)

~~~~~side end~~~~~

(こちらの声が聞こえますか!?)

【うわ、なんだ!?!】

繰り返し念話をしていたら、突然頭の中に声が響いてきた

どうやら念話はうまくいっていたみたいだな…

もしかしてアタリか!?

《ああ、聞こえているぞ!》

(ああ、よかった!)

《で、おまえは誰だ?》

(はい、ぼくはユーノ・スクライアといいます)

おっじゃアタリだ!!

《そうか、ユーノだな。おまえは今どこにいる!?!》

(はい、それが誰かに身体を操られているみたいで…)

《なに!?!》

そんなの聞いたことねえぞ!まさかイレギュラーか!?

《わかった！とりあえずおまえの！？》

いきなり黒お化けが飛びかかってきた！

《くそっ、少し待ってろ！》

そう言いつつ俺は黒お化けから隠れるために木の上へ跳ぶ

そして色々な木に飛び回り適当なところの木の葉の中に隠れて、
様子をうかがう

・・・よし、あいつは俺を見失ったようだな

これで念話に集中できる

(どうしたんですか!?)

《ああ、今ちょっと追われていてな…》

と、そんなこと話している場合じゃない！

《で、おまえの身体は今どこにいる!?!》

さっさとイレギュラーを排除しねえとおr・ユーノの命が危
ない!!--

(えっ!とですね、先ほどまで走っていたんですけどいきなり木の
上に跳んで

木と木をすごい早さで飛び回って今は木の中に隠れているよう
です)

……え？

《すまん、もう一回言ってくれないか？》

(あ、はい。先ほどまで走っていたんですけどいきなり木の上に
跳んで

木と木をすごい早さで飛び回って今は木の中に隠れているよう
です)

《……………》

(どうしたんですか？)

おいおい、どどういう事だよ……？

さっきのユーノの身体がした行動と俺がさっきやった行動が全
く一緒になっている

もしかして……

その瞬間、木がいきなり折れた

【っ、もつばれたか!!】

そう思い、すぐに地面に降りて走り出す

こんだけ動いているのに疲れないなんて、さすがチートボディ

!!

そう考えていたらユーノから念話が入ってきた

(あ、今動き出しました、またどこかに走っています!)

・・・やっぱりか

まさかとは思ったが、どうやら正解だったようだ

俺はそれを伝えるためにユーノに念話をとばす

《おい、ユーノ聞こえるか?》

(はい、聞こえます。)

《おまえの身体を見つけたぞ》

(本当ですか!?!...けれど、どうやってこの魔法を解除するんですか?)

《その心配はない》

(解除の方法を知ってるんですか!?)

《そもそも解除の必要はない、なぜなら・・・》

《俺がおまえの身体を使っているからだ》

無印編？ プロローグ その2 くいきなり戦闘、そして予想外の事態！??

zeilga「てなわけで、無印編？プロローグその2でした!!」

鏡夜「おいこら作者^{アホ}！これはどういうことだ!？」

zeilga「どういうことって？てかさらつとアホ呼ばわりしないでよ」

鏡夜「なんでこんなよくわからん状態に俺はなってるんだ!？」

zeilga「なんでって、それは俺がそうしたかったからだ!!」

鏡夜「……」

zeilga「??」

鏡夜「…なあ、作者^{アホ}？」

zeilga「…ナンデコブシヲコチラニムケテルノデスカ?（;´。´）」

鏡夜「最後に言いたいことはあるか？」

zeilga「ねえ無視？無視なの!？」

鏡夜「くたば」待て、言いたいことならあるから!」・・・なんだよ?」

zeilga「反省はしよう!、だが後悔はしん」くたばれやああああ!」

つてぎゃああああ!!」ガクッ」

鏡夜「つたく、いい加減にして欲しいな

つと、これを見てくれてるみなさん

次回も楽しみにしててくれよな?じゃあな!!」

感想待ってます!!

無印編？ プロローグ その3 く改めて、戦闘開始！ーく（前書き）

先に言っておきます・・・

すみませんでしたあああああああー！ー！

無印編？ プロローグ その3 〱改めて、戦闘開始！〱

前回のあらすじ！！

俺の力が通用しないぜ！！

ユーノ（淫獣）との念話に成功！

俺、ユーノの身体に憑依！？

~~~~~

（それってどういふことですか！？）

あゝ、やっぱりそう言うよな…

《落ち着け、俺だってなんでこうなってるかわからねんだ！》

（わからないって、あなたがやったんじゃない？）

ああゝ、もうまどろっこしい！！

《おいコラユーノ！！！》

（え？あ、はい！）

《このことについての話はあとだ！とりあえず今は目の前のことに集中したい！》

こいつ言い合っている間にもあの黒お化けはこっちに来てるからな  
いくらチートボディとはいえ、

このままずっと走っていたらどうなるかわかったもんじゃないねえ！

(わ、わかりませ《あ、あとユーノ！》は、はい！)

《敬語はなれてねえからやめてくれ！ 俺は目上の人間じゃねえ  
からな・・・》

敬語だったのも俺を管理局の人間と間違えていたからだろうし・

(え、でも《いいから！》・・・うん、わかったよ。え〜と・・・

ん？

《どうかしたか？》

(…君の名前ってなんだっけ？)

………あ、言うの忘れてたorz

《わりイ、言ってなかったな…藤堂鏡夜だ。鏡夜と呼んでくれ》

(うん、わかったよ。ところで、目の前の事って？)

そっだ、忘れてたー！

《あぁ、ところでユーノ、おまえ俺の後ろから来てる奴が見えるか？》

(うっん、見えないよ。今見えてるのは多分前の光景じゃないかな？)

・・・どうやら見ているものは一緒らしいな、なら…

《これならどうだ？》

そっ言って、俺は後ろを向きながら走る

…なんか

【こうしてみると黒お化けて、ものけ姫のタタガミみたいだな(汗)】

てそんなこと言ってる場合じゃねえ！

《で、見えるか！？》

(うん、見えるよ…って、この反応はジュエルシードじゃないか！?)

《そっか、こいつはジェルシードというのか？》

念のため原作知識は出さないようにしないと…ばねるとめんどいし

(いや、ジュエルシールドは本来宝石みたいな形をしている…)

多分これはジュエ

ルシールドが何らかの形で暴走しているみたいだ)

《そっか、ならどうすりゃいい？倒せばいいのか？》

(多分普通の攻撃じゃ意味がないと思うよ)

ですよね、さっき散々試したからな…

《じゃあどうすりゃいいんだよ…！？て、しまった！》

突然道が開けて広場みたいな所に出てきてしまった

そして黒お化け登場！！

・・・これじゃ逃げねえよ

(おちついて！、あれがジュエルシールドなら封印をすればいいから…！)

《まず俺はその封印の仕方を知らねえんだよ！！》

(大丈夫、君が今使っているのはボクの身体だ。

だからデバイスがあれば出来るはずだ！)

《じゃあそのデバイスはどこにあるんだよ！》

こっぴ言い合ってる間にも黒お化けは突進をしてくて、俺はそれ

をひたすらよけている

少しからだが重い、疲れてきたのか？…それならもっとやばいじゃん！！

(鏡夜！腰のポーチから赤い宝石を出して！！)

《赤い宝石？これか！？》

そう言っただけで俺が取り出したのは丸くて赤いきれいな宝石

…これレイジングハートじゃね？

(そうそれ、それを使ってあいつを封印するんだ！)

《封印って言ったって、呪文は！？》

呪文なんか知らねえぞ、俺は！？

(それはこの宝石が教えてくれる！…はず)

疑問形！？

《ああもう、こっぴどくならやるしかねえ！！》

そうして俺は宝石を黒お化けレイジングハートに向かってつきだした

その瞬間宝石が光り出し、

複雑な魔法陣が出現するとともに俺の中に言葉が浮かび上がった

てくる

【こいつを言えばいいのか!?!】

上手くいつてくれよ!

【我が光よ、闇を打ち砕け】

(できるかわからないけど、ボクも手伝っよ!)

【許されざる者を封印の輪に】

《ああ、頼む!》

【(ジュエルシールド、封印!!)】

その瞬間、光(魔法陣)と闇(黒お化け)が衝突した

無印編？ プロローグ その3 ぐ改めて、戦闘開始！〜（後書き）

zeilga「はい、というわけで無印編？プロローグその3でした！」

鏡夜「ちよつと待て作者！」

このまま行ったら俺とんでもない原作ブレイクしそうなんですけど！？？」

zeilga「大丈夫！そこら辺は考えてあるからな」

鏡夜「頼むぞ！？下手すりゃ題名から変えなきゃならないことになる！」

zeilga「魔法少年リリカルきょうや…ていうことになるのか」

鏡夜「そうだ、それだけは絶対避けなければいけない！」

zeilga「ああ、わかっているさ、俺もそれを考えたら…（；。）」

（ゴクリ…やばいな」

鏡夜「だが元はといえばおまえが原因だよな」

zeilga「（、――（；ドキッ！…というわけで今日はここら辺で！」

次回もお楽しみにぐじゃっ！」（ぐ、ぐ、ぐ）

鏡夜「おい待て、逃がすかよおおお！……！！」（ぐ、ぐ、ぐ）

感想待ってます！

無印編？ プロローグ その4 〽突然終了、そして事情聴取！〽（前書き）

もう一回投稿！！

無印編？ プロローグ その4 ～突然終了、そして事情聴取！～

前回のあらすじ！！

ユーノとの話し合い完了！

倒す方法発見！

封印してやらあ！

~~~~~

～ユーノside～

(よし、このままならいけるよ！)

《わかってる、このまま封印するぞ！》

そう言っつて鏡夜は強くデバイスを握りしめている

それにしても、たった一回でちゃんと発動させるなんて…

彼は一体何者なんだ？

封印し終わったら聞いてみようかな？

そんなことを考えていたら、突然

【はあ、なんだよいきなり!?!】

彼がいきなりそう叫んだ

え、ボクなにも言っていないよ?

そう言おうとしたが

【ちよい待て、人の話を・・・!】

そう言った瞬間封印の魔法陣が消えた

(え!?)

まずい!、今やめたら・・・

そう思ったが遅かった

あの暴走体の突進をうけてしまい

ボクの身体は空高く舞い上がった、その瞬間

(いたっ!)

ボクに痛みが走った、それと同時に身体感覚が戻ってくる

だがボクの身体は地に倒れ、暴走体はどこかへ行ってしまった

(いたた・・・、鏡夜?)

呼びかけてみたが彼からの反応はない

「鏡夜？、どうしたの鏡夜？…って、あ！」

普通にしゃべれるようになってる・・・

けれど身体が先ほどの攻撃のせいか動かない

まずい！あれがもしも都市のほうにいったら・・・

…本当はこんなことしたくはないけど

そしてボクは残る力を振り絞って念話を使った

（誰か、この声が聞こえる誰か、お願い、力を貸して・・・）

～コーンside end～

・・・たくっ、なんでこんなことになったんだ？

あ、どうも鏡夜です

おまえなにしてるんだよだつて？

なにしてるって言うと・・・

「ホントにすみませんでしたああ！！！」

あのときと同じ女神の土下座を見てあきれてるどころだ

そもそもなんで俺がまたここにいるのかという・・・

～回想スタート～

(よし、このままならいけるよ！)

《わかってる、このまま封印するぞ！》

よし、このままならいける！

そう思っていたら

(鏡夜さん！聞こえますか！？)

え、なんで女神さんの声が？

(聞こえていたら聞いてください！今からあなたをこちらへ呼び戻します！！)

【はあ、なんだよいきなり!?!】

いきなりなに言ってんだこのひと (?!?) は!?!?

(大丈夫です、今回は意識だけです！ではいきます!?!)

【ちよい待て、人の話を・・・!】

そして、俺の意識はとぎれた

【・・・いてて】

そうやって俺が目を開けると

いつぞやの白い空間に俺はいた

【たく、いったい何のよ!?! どうやら来たみたいですね!?!では……?!!
…なに?!!】

何かやな予感が……

「ホントにすみませんでしたああ!?!……!?!」

〜回想 終了〜

よし、状況はわかったな？ということだ…

【なんで俺をまた呼び出したんだ？】

「えつとですね、あなたを送る際に色々とミスをしてしまったその内容を説明に…」

やっぱりなんか間違っついていやがったか…

【で、なにを間違えたんだ？】

俺がユーノの身体に憑依してしまったことか？

「いえ、それだけじゃなくてですねその他にも…」

そう言っただけじゃなく、女神さんが説明してくれた内容をまとめると…

手違いで、俺はユーノの身体に憑依（？）した

手違いだったため、ユーノの魂は消えなかった

さらにユーノの身体のため、身体能力を高めすぎると身体が持たない

の3つだった

とりあえず言おう・・・

【ドンだけミスってんだよ!？】

「すみません！お詫びに願いをなんでも叶えますから！」

そう言って謝ってくる女神さん、そこまで謝られるとなんか罪悪感が…

【えっと、じゃあ身体能力を制限できるようリミッターをかけてくれ】

「・・・え？」

ん？何か変なこと言ったか？

「いえ、もっとチートな能力を頼んでくるのかと・・・」

【いやいや、初期化^{リセット}あるだけでだいぶチートだよ】

あれひとつでとんでもないからな…

「はあ、そうですねか…では、えいっ!・・・はい、もう終わりましたよー!」

いつ見てもはやいよな…ほぼ一瞬じゃん

【で、どんなかんじに感じたんだ?】

「はい、とりあえず10段階に分けてかけておきました。
1つ解放することに大人10人分能力が上がりま
す」

【おお、けっこうわかりやすいな。ありがとな】

「いえ、けれど本当によかったのですか？」

【ん、なにが？】

「願いですよ、まだかなえることは出来るんですよ！もう無いんですか!?!」

【うん、別にいらなかな】

特に必要なこともないしな・・・

「いえ、それじゃ私の気が収まりません!ということまで、えいっ
!!--」

【うわっ、なにをしたんだ!?!】

「能力をひとつ追加させてもらいました!」

【え、なんで?別によかったのに...!】

「それじゃあ私の気が収まりませんから・・・」

なんか健気というか、真面目というか...

【はあ、んじゃありがたくもらっておくよ、ところでなんの能力？】

…まさか、フェーはい、今回渡したのは幻想殺し（イマジンプレイカー）です！」

…やっぱちがうよな…

「では、その扉をくぐればなのは世界へまた行きますが

ナニカ聞いておきたいことはないです

か？」

【あ、じゃあ初期化の使い方を教えてくれ】

これ知らなくて、えらいめにあつたからな…

「はい、基本の使い方はあなたが考えたときと同じですが

“零”を使う場合はあなたが一回それを経験しないといけません」

ん？

【つまりどういふこと？】

「え〜とですね、つまり相手の魔法に“零”を使いたいなら

相手の魔法を一回受けなければなりません」

結構使い道が限られるな…まあいつか！

【なるほど、ありがとな女神さ「アテネです」ってえ？】

「いつまでも女神さんじゃよそよそしいですので、アテネと呼んでください」

ええええええ!!???

アテネって、たしか戦いの女神じゃなかったっけ!?

そんな偉い人に俺はため口だったのか!?

【あ、はいわかりまし」口調も前ので良いですよ「…ああ、わかった】

・・・何か普通にいい人だな

【じゃあ、そろそろ行くわ。能力くれてありがとうな、アテナ】

「はい、ではいつてらっしやい!」

アテナの声を背に俺はなのはの世界へ戻っていった

あれ?そういや・・・

【封印の途中で消えたけど大丈夫だったのか？】

無印編？ プロローグ その4 へ突然終了、そして事情聴取！へ（後書き）

zeilga「てなわけでプロローグその4でした!!」

鏡夜「なんつーか、強引だな・・・（；；、）トホホ…」

zeilga「しょうがねえだろ！俺だつて一生懸命したんだ！」

鏡夜「けどこれで何とかなったんだよな？」

zeilga「ああ、なんとかなったよ・・・多分」

鏡夜「なんか激しく不安なんだけど!？」

zeilga「そこら辺は鏡夜が頑張ってくれ！（ー）（bグツ!」

鏡夜「いや、おまえがガンバレよ!？」

zeilga「俺は…もう…限界なんだ…（、、、）グツタリ」

鏡夜「おい作者!?!だいじょうぶか!おおいいいいい!!!!」

感想待ってます!!

ここら辺でキャラ紹介

「はい、みなさんおはようございます！又はこんにちは！、又は
こんばんわ！

作者のゼルガです！！」

【この作品の主人子の鏡夜です！！】

「というわけですね、今回は題名のとおり鏡夜の紹介をしたい
と思います！」

【なあ、なんでいきなりやろうと思ったんだ？】

「ああ、それはね、…鏡夜の設定がわかりづらいし、
何よりも能力の確認をしておこうかなと思ったからだよ！」

【どうせ俺はわかりづらいよ……）　、　（＝3　ハアーツ】

「まあまあ……（汗）じゃあまずは転生前の紹介から行かせ！」

名前：藤堂鏡夜　（とつとつ　きょつち）

容姿：めっちゃ普通、もしも適当に人を100人集めてイケメ

ンランキング

を作ったらジャスト50位になるくらい普通

年齢：享年19歳

性格：お人好し、困っている人を見かけたら放っておけない

好きな作品：なのは、ガンダム、めだかボックス e t e …

学校は中学を出たあと高専に行つて、機械科の大学にいた

なのは友達に勧められて漫画を見てハマッタ

DVDも見たいと思いい週間かけてようやく借りれたところをアテナにより手違いで殺された

「…とまあ、こんな感じだな」

【あんときはほんとうにショックだったな…】

「やっと借りれた瞬間に殺されたモンね…（…）（…）（プッ）」

【よし、まずおまえの身体から刻んでやるよ（#…）（…）】

「やべっ、という訳で次は転生後の紹介に行くぞ！」

【チッ…】

名前：藤堂鏡夜（とうどう きょうや）

容姿：ユーノそっくり…というかユーノの身体

自分がでているときは目が赤くなる

性格：転生前に加えてつつこみスキルが出てきた

年齢：多分なのは達と同じ年（身体年齢が）

能力

リンカーコア SSSランク

・憑依もどきのため、この魔力が使えるかは今のところ不明

身体能力 大人100人分

・ただしリミッターを付けており、今は2段階目までしか解放できない

初期化
リセット

・アテナからもらった厨二病全開の時に鏡夜が考えた能力

元はめだかボックスの マイナス過負荷だったが

アテナのおかげでレアスキル扱い

能力は“壱”と“零”の2種類を使い分ける

壱：あらゆるものを初期化（元の状態に）する

零：あらゆるものを初期化（なかったことに）する

違いがわかりづらいが

例えばある人に無意識で“壱”を使ったらその人を赤ちゃんの状態まで戻し

“零”を使ったらその人の存在そのものが消える

球磨川の大嘘憑きを二つにわけたようなものだが

この能力は調節することが出来るうえに過負荷だろつと世界だろつと使用することが出来る

「……………」

【……………やっぱりチートだなあ】

「けれど、初期化以外は何か平凡じゃね？」

【それを言うんじゃない！…それにこれだと向かうところ敵なしじゃないか？】

「大丈夫、そこら辺は考えてあるから、フッフッフッフ…」（黒笑）

【…（汗）ま、まあとりあえず、俺の説明はこんなモンだな】

「そだな！それじゃ、今日はここら辺で！！」

【これからもこの作品をよろしく頼むぜ！】

おまけ

【もしかしてこれをしたのって、ネタが思いつかなかったからじゃねえか？】

「（、——；）ドキッ！！　そ、そんなわけないじゃないか」

【・・・（何か怪しいな）おいコラ作者】

「な、なんだよ」

【なんで今回は少し更新が遅かったんだ？】

「なんでって、最近の生活が忙しかったからだ！」

【そうか…苦勞したんだな】

「そっだ！山のように課題出されて、この小説だってネタを考えて
思いつかないから今回はこれで場をつなごうと・・・あ
。」

【・・・ちょっと後で O H A N A S H I I しよつか？】

「しまったああああああ！...！」

ここら辺でキャラ紹介(後書き)

感想待ってます!!

無印編 第一話 く戻っていきなり戦闘だと!?! (前書き)

ためておいた原稿を間違っつて削除してしまった・・・orz

そのため、おかしくなってるかもしれません!!

無印編 第一話 戻っていきなり戦闘だと!??

前回のあらすじ!!

強制的に連れ戻された!!

新たな能力を手に入れた

オレ、戦いの女神にため口だった!?

~~~~~

・・・ん?

どうやら着いたようだな?

って、ありゃ?

身体が動かない・・・

それに目もあかない...あけられないの方が正しいか

とりあえず、念話を使う

《おーい、ユーノ聞こえるか?》

.....反応無し

もしかして、寝てるのか？

ならばー！

《さっさと起きねえか、ユーノ（淫獣）！！》

これなら起きるだろ！

「うわ、なんだ！？」

ほらな？

《やっと起きたか？》

（その声は鏡夜！？今どこにいるの？）

そう言った瞬間からだがり周りを何度も見ている

《落ち着け、前にも言ったがオレはおまえの身体の中にいる》

（そうか、そういうばそうだったね・・・ねえ鏡夜）

《ん、なんだ？》

（さっきユーノって呼んだよね？ナニカ違う風に呼ばれたような・・・？）

《キノセイキノセイ》

(なんでカタコト!?)

《それはさておき》

(さておかれた!?)

《ここはどこなんだ、あの森じゃないようだが?》

見た感じどこかの病院か?

(うん、あのあと色々あってここに連れてきてもらったんだ…と  
ころで鏡夜)

《うん?》

(どうしてあのとき急に封印をやめたの?)

あの調子なら封印できたのに…)

ああ、それが…

女神アテナに連れて行かれた!?!っていつても信じるわけねえしな…

《ああ、それはおれにもよくわからねえ

あのとき突然目の前が真っ暗になったんだ》

はいそこ、ポ モンとか言わない!

(そうだったのか…)

と、そういえば忘れてた!

《ユーノ、おまえ今身体動かせるか?》

(え?うん、普通に動かせるよ)

そう言っつてユーノは手を握ったり開いたりした

ん?いまならできるんじゃない?

そう思い、手を思いつき振り回した

……やっぱだめか

《どうやら今はユーノが身体を動かせるようだな》

(鏡夜は動かせないの?)

《まあな、さっきから動かそうと思ってるけど全く反応がねえ》

(鏡夜が意識を失ったからかな?)

《まあそこら辺はのんびり考えよう……ところでユーノ》

(なに?)

《なんで俺らの身体がフェレットになってんだ!?》

そう、先ほどユーノが手を動かしたときに目に入ってきたのが  
どう考えても人間の手とは思えない程ちっちゃかったんだ!!  
それに、たしかフェレットモードは傷をいやすためになるはず…  
アテナに連れ戻される前までは無傷だったよな？  
じゃあフェレットになる必要は…

(あ、それは鏡夜が意識を失った瞬間に暴走体の攻撃を受けてしまっ  
てね…)

傷をいやすために今はこの身体になってるんだ)

…あつたようですね、はい

《そうか、だから俺らはケージに入れられてるんだな》

最初は檻に入れられてるのかと思っただぜ…

(ははは…(苦笑))

《つまりここは、動物病院なのか…って、あ!》

そう言ってオレは周りを見た

時間帯 〳 夜

場所 〳 動物病院

俺らの身体　く　フェレット

俺らがいる場所　く　ケージの中

ここまで言えばもうわかるよな？

どうかんがえてもあのシーンですね、はい（汗）

やばい、これは早急に教えなければ！！

《なあユーノ、実は「ガサツ」ん、なんだ？》

（猫かナニカじゃないの？）

ガサガサ・・・

《猫か、迷い込んだのか？》

ゴソゴソ・・・

（多分ね。それよりもさっき言おうとした事ってなに？）

ガサゴソ・・・

《ああ、それは・・・》

ドゴーン！！

《(ドゴン!?)》

ヒタヒタ・・・

(ナニカがこっちに来てるね・・・)

《なあユーノ、俺めちやくちやいやな予感がするんだが》

(奇遇だね、ぼくもだよ...)

そして、それは目の前にやってきた

そう、みんなも知ってるあのキャラクター・・・

黒お化け(暴走体)、登場!!

ユ・ノ side

(く、なんでこんなとき!?)

まだ傷が治りきってないこの身体じゃ封印が出来ない!

《そんなことより今は逃げるぞ!!--》



これなら出られるかも!!

「えいつ!!」

よし!なんとか出れた!!

それと同時に、暴走体もこちらに追いついた

そしてボクに攻撃(突進)を始めた

《おいおい…このままじゃまずいぞ!?!》

(うん、けれど今の身体じゃボクは封印が出来ない。

鏡夜、何とかして出てこれない?)

《わかった!やってみるからしばらくよくよけてろ!!》

(うん!つてイタツ!!)

く、少しあたってしまった…

もしこれで鏡夜がダメならどうすることも出来ない

《クソ、やっぱりダメだ!なんの反応もねえ!!》

やっぱりダメか…

…くそ!これしかないのか!!

ユ一ノ side end

《クソ、やっぱりダメだ！なんの反応もねえ！！》

どうすればいい、どうやったら勝てる！？

俺は頭はフル回転させて考えていた

(…鏡夜、ボクにひとつ案がある)

《何かあるのか！？》

(この世界の魔法の才能がある人に助けを求める)

・・・それがあつたな

(念話に気づいて助けに来てくれるかも・・・)

《ああ、だがそれでいいのか？》

実を言うとこれは俺がDVDを見た時から思っていたことだ

助けを呼んだとき、ユーノはどう考えていたのか

ここが管理外世界と言うことは知っていたはず

それをどうしても知りたかった

だから、俺は聞いた

《なんの関係もない奴を巻き込むかもしれないんだぞ?》

(わかってるよ!けれどこれしかないから…)

だから力を借りるのは一回だけだ、あとはボクだけでやる)

・・・実際はずっと借りてるんだがな

《そっか、ならいい。だがな・・・》

(???)

《一人じゃ無理だろ?》

(・・・)

《だから俺も手伝う》

(え!?)

《どうせしばらくはおまえの身体にいるしな

だからおれも手伝うよ》

( いいの? )

《あのな、一人じゃ出来ないことも二人なら出来るかもしれない  
だろ?》

この状態は、ある意味で“一人で二人”だからな・・・

(・・・ありがとう)

そしてユーノは最大限で念話をとばして言った

物語が始まるあの言葉を

(聞こえますか? 僕の声が聞こえます?)

(聞いてください! 僕の声が聞こえるあなた)

(ボクに少しだけ、力を貸してください!)

(お願い、ボクの所へ!!)

無印編 第一話 く戻っていきなり戦闘だと!?? (後書き)

zeilga「はい!てな訳で無印編第一話でした!!」

鏡夜「やつと本編だな・・・」

zeilga「結構時間かかったね?」

鏡夜「結構じゃねえよ!?丸々二週間かかってんじゃねえか!」

zeilga「まあまあ、これから盛り上げていくんだから

・・・それよりも鏡夜?」

鏡夜「なんだ?」

zeilga「もしかしてユーノに興味があるのか?

今回あんなに良い感じになっちゃって・・・もしかして!

」?

鏡夜 ( # ° 。 ) = ( # ) ( ) ・ ・ ・ z

eilga

鏡夜「ツギイツタラクロス」

zeilga「ガクガクガクガク・・・」

鏡夜「つたく・・・」

というわけで今日はこの辺で終わりだ!

次回も楽しみにしてくれよな!!じゃあな!」

感想待ってます!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1004z/>

---

魔法少女リリカルなのは ~ 転生じゃない?なら憑依??...え、どっちでもな

2011年12月18日07時46分発行